

熊本城と明治維新

熊本城調査研究センター
佐藤理恵

はじめに

- ・明治維新とは…19 世紀後半、日本が幕藩体制から近代天皇制へと移行する転換点となった一大変革
- ・今年、来年は記念年
2017 年：大政奉還 150 周年／2018 年：明治維新 150 周年

1. 幕末の軍事技術変化

- ・ペリー来航の衝撃
なぜ「黒船来航」がこれほど衝撃だったのか
 - ・アヘン戦争と蒸気船
 - ・目の当たりにした軍事力の差→危機感
- ・安政の五カ国条約…諸藩もある程度は洋式武器（洋式銃・大砲・蒸気船）を入手できるようになる
→軍備（武器・軍制）の急速な洋式化

2. 時代の転換

- ・大政奉還：慶応 3 年（1867）10 月 14 日
→徳川慶喜、政権を朝廷に返上…政治の担い手の変化
- ・戊辰戦争：明治元年（1868）1 月～明治 2 年 5 月
→諸藩軍隊を政府が編制
幕末に装備が進んだ近代兵器（洋式武器）の使用
- ・版籍奉還：明治 2 年（1869）1 月～
→藩主らによる土地・人民の朝廷（天皇）への返上政策
藩主らは改めて知藩事に任命
同年 6 月、熊本藩となる

3. 熊本城をめぐる

① 城の廃毀

- ・藩政改革案に天守を取り崩す案が出る
- ・明治 3 年（1870）7 月：藩庁を花畑の旧藩主邸に移す
- ・城の廃毀願 明治 3 年 9 月
軍制や武器が近代化したため、かつての「金城湯池」（＝守りが堅く容易に攻め落とすことのできない城）であっても、「無用の贅物」
→廃藩置県前に出された城郭廃毀申請は 46 に及ぶ¹
- ・城の一般公開

② 城の変化

- ・洋学校、医学校の設置
- ・錦山神社の遷座
→以前よりは様々な人が出入りできるようになる

③ 城の軍用地化

- ・鎮西鎮台の熊本設置
花畑にあった県庁の移転→鎮台が入る
- ・熊本城の軍用地化
二の丸に兵営建築が始まる
熊本城が陸軍用地に編入される
熊本鎮台本営が熊本城本丸に移転する
錦山神社の移転
医学校の移転、洋学校の廃止
- ・軍用地の収集
→軍施設用地を買い集めることで、土地の散逸や開発が防がれた

¹ 一坂太郎『幕末維新の城』（中公新書、2014 年）249 頁

【主要参考文献】

『肥後藩国事史料』（侯爵細川家編纂所、昭和 7 年）
荒木精之編『写真の先駆者 富重利平作品集』（富重利平作品集刊行会、昭和 52 年）
『幕末・維新の銃砲大全』（洋泉社、2013 年）